

## 【開催結果概要】

### 第2回生きものフォーラム

# 「外来生物アライグマの実態に迫る」

2016年2月14日（日） 13:30～16:30

会 場 浦和コミュニティーセンター 第15集会室

主 催 NPO法人いろいろ生きものネット埼玉

参加人数 81名

## 1 あいさつ

NPO法人 いろいろ生き物ネット埼玉 代表理事 脇坂純一

当法人は、外来生物問題について、自ら駆除活動を行うとともに、県内で活動されているNPOや自治体の状況を調査し、情報を広く共有することを目的に活動しています。この生きものフォーラムはその一環として、自らが学ぶとともに、他のNPOなどの皆さんと意見交換をする場として開催しているもので、今年で2回目です。昨年は外来植物を中心に議論しましたが、今年は外来動物をテーマとしました。



特に現在、各自治体で最も困っているアライグマにスポットを当てました。基調講演、活動報告、フロア・ディスカッションと長時間になりますが、どうぞよろしくお願ひします。また、会場内に外来生物問題に取り組むNPOの活動状況のパネル展示をしていますので、休憩時間等にご覧いただければと思います。

## 2 基調講演

「埼玉県におけるアライグマ・ハクビシンの生息・被害状況と対策」

埼玉県農業技術研究センター 古谷益朗

（司会：当会のメンバーであり、県の農業技術研究センターで、農業被害の防止のため、アライグマやハクビシンについて実践的に調査・研究をしている方です。テレビ出演なども多く、この分野では我が国でも有数の方です。）

本日は、アライグマとハクビシンについてお話しします。どちらも現在、農業被害が多く、その対策をしなければいけないという点では同じです。しかし、アライグマは法的には外来生物ですが、ハクビシンは明治より前に日本に入ってきたので、外来生物ではありません。

動物による農業被害を軽減するためには、相手の生態を知ることが重要です。アライグマは、見た目は狸と似ていますが、ひげが白く、耳のところが白い、しっぽが縞模様になっているのが特徴です。道で出会った場合、背を丸めて、頭としっぽを下げて道を通るので、そこで見分けがつかず。昭和52年1月から12月に放映された世界名作劇場でアライグマ・ラスカル



として人気を得たため、ペットとして日本に多く入ってきました。しかし、すぐ大きくなり、特にメスは半年で成人し、気性が荒くなるため、手に負えなくなって、捨てられたものが野生化し繁殖したものと考えられています。関東の分布をみると高速道路沿いから広がっており、高速道路で捨てにきたため、広がったという仮説が成り立つようです。

繁殖のスピードは非常に速いです。必ずしも夜行性ではなく、側溝などのなかを移動することも多く、非常に慎重であることから、車に引かれることが少ないと思われます。ビデオでお見せしますが、手が器用なため、農作物も口で食べるだけでなく、触る、引っ掻くことをします。このため、次のような被害が発生しています。

- ・ブドウの袋を破って食べる。前足を使うので、袋が土で汚れるのが特徴。
- ・トウモロコシはなぎ倒して、全て食べる。
- ・果物を落下させる。斜め上からかじる。
- ・スイカに大きな穴をあけて食べるのはアライグマだけ。
- ・サクランボやブルーベリーの枝を折る。このため、被害が何年にも及ぶ。
- ・餌の対象はどんどん広がっている。そこにあるものを食べる習性があるようで稲まで食べる。
- ・子離れが遅く、家族で食べにくいため、大量に食べられ、被害が大きい。

歩き方に特徴があります。側対歩といって 手と足が同時に前に出るので。この点はハクビシンとは違います。

天井裏に住み着いてしまうなどの家屋被害も問題になっています。柱に傷をつけるのが特徴です。天井の尿シミの出方にも特徴があります。壁に沿ってシミが出ている場合は、アライグマです。増築や改築した家はどうしても隙間があり、そこから侵入されてしまう

ケースが多いようです。通風孔の壊れたところ、風呂場の風抜きなどからも侵入します。

増殖については、メスは増殖地域の近くに広がりますが、オスは遠くで生育します。このため、増殖地域のみを捕獲しても、広がった区域の対策が遅れれば、結局、増殖を防ぐことはできません。

ハクビシンについてお話しします。ジャコウネコ科、明治より以前に入ってきたので、在来生物として扱われます。完全夜行性です。年間を通して出産し、平均 2.9 頭と子供の数は多くはありません。成長は遅く、14 か月程たないと成体となりません。寿命は 20 年と長く、その名のとおり顔に白い線があり、シッポが長いのが見た目の特徴です。

農業被害の様子は、アライグマとは違います。

- ・ブドウを食べても袋が汚れない。人間が食べたように口で袋を破く。
- ・トウモロコシは斜めに倒して、上だけ食べる。
- ・梨は下半分を食べる。

自然の糖度計といわれる程、味覚がするどく、甘酸っぱいものを選び分けて食べます。ジャコウネコの糞から出たコーヒー豆が最高級コーヒーとしてもはやされている所以です。

家屋被害の様子もアライグマとは異なります。ハクビシンの足は人の手のような形でツメを使わないため、柱などにツメ跡が残りません。天井のシミも貯め糞をするために、壁から離れたところに出ます。トイレは水洗というか、たまり水や水辺など水のある所に糞をする性格があり、ハクビシンの足跡を知る手がかりになります。

ハクビシンはここ 20 年間で急激に繁殖しました。その前は天然記念物に指定していた地方もありました。以前、北欧の動物園から依頼があり、飼育していたハクビシンを寄贈したことがあります。縄張りを持たない、餌場や寝屋を共有する、冬眠をしないという特徴があります。

アライグマでもハクビシンでも動物による農業被害対策を効果的に進めるためには、食・住・体への正しい対応が基本となります。つまり、なぜ、こうした動物が増えるかと言えば、人里には①食べ物がある（食欲を満たす）②身を守る場所がある。（安全な場所）ということです。例えば、自然界では冬場には餌がなくなります。しかし、畑に行けば多少はある。畑に餌がなくても、ゴミなどがあるので、それを食べるということになります。いわば、被害を出す動物を人が養っているようなものなのです。ですから、食については、増加の手助けをしている餌を与えないことが重要です。夜のゴミ出しもだめ、庭の柿の実の放置、廃棄農産物は無意識の餌やりになっています。市民農園は野菜等の放置が多く、餌の提供場所になってきています。

被害防止対策をとるにしても、誤った情報や間違った認識が多い状況です。例えば、夜行性だから、光を嫌うと思われ、光で被害を防ごうと思っても、動画のとおり効果はありません。アライグマやハクビシンの行動を考慮した有効な電気柵の設置などが必要です。私たちは、アライグマとハクビシンを侵入させない対策を組み立てるにあたって、「登る」

と「穴を掘らない」という2つの能力に着目しました。登らせて、高いところで感電させることで、動物にとって「イヤな場所」としての意識づけ効果が高くなります。動画をご覧ください。

また、侵入防止策が普及しない理由の一つに「農作業への影響」があります。高い柵で囲ってしまうと、管理作業用のドアが必要になり、耕うんや除草などの管理作業の妨げになります。そこで、開発したのが高さ40cm程度と低い電気柵です。設置費用も安価です。これは中型動物の飛び越え能力と探査行動を利用したものです。ただし、設置したその日から通電するなどいくつかの約束事があります。動画でその効果をご覧ください。

住については、安心して休息できる場所、繁殖できる場所を与えないことです。今、空き家率が13.5%にもなっています。こうした空き家がよくありません。

そして、体とは効果的な個体管理、捕獲の実施です。畑を守りながら、被害を与えている個体を効率よく捕獲するといった農業者の意識改革が必要となっています。また、個体数調整のためには、繁殖期を特定して、出産前に高率的な捕獲を行うことが有効です。

これら3つの柱を総合的に実施して初めて効果が見えてくるものです。どの柱が欠けても効果を期待することはできません。現在のところ、自然のままに両種が減少する要素はありません。農作物被害、家屋侵入等の問題を解決するためには、地域とそこに生活するすべての人の力が必要となっています。

アライグマとハクビシンの対策はまだ歴史が浅く、様々な視点や角度から新しい知見を取り入れて総合的に取り組んでいかなければなりません。現在、被害に悩まれている多くの地域で意識改革が行われ、正しい知識と新しい技術を積極的に取り入れた効率的な対策が実施されることを期待します。

### 3 生物多様性保全活動報告

#### (1) チームアライグマの活動

チームアライグマ

岩木れん（県立越谷北高校2年）

チームアライグマは、ヒトと野生生物との共生を考えることを目的に、埼玉、東京の中学・高校10校の生物部の生徒がメンバーとなり、平成26年4月29日に発足しました。活動としては、アライグマの爪痕調査の取り組みを県内・都内の一部で始め、その調査結果は平成27年3月に鹿児島大学で開催された日本生態学会でポスター発表しました。

平成27年9月22日には、早稲田大学



所沢キャンパスでシンポジウムを開催しました。その後、平成 28 年 2 月 7 日には、日本獣医科大学で外来生物駆除に関する公開討論会を開催しました。爪痕調査の後に、どういう活動の方向を目指すべきか定まらなかったため、チーム内のアンケートを実施し、アライグマなど外来生物の問題については普及啓発活動も大事だということになりました。このため、今後は、研究班と啓発版に分かれて活動することにしました。普及啓発活動の一つとして、ツイッターを始めましたので、是非ご覧下さい。また、今年も、日本生態学会に参加する予定です。

## (2) 小川町のアライグマ駆除の状況

小川町環境保全課 岸 勇介

平成 24 年に小川町役場に入り、4 年目です。正直言って、町役場に入って、こういう仕事に就くとは思いませんでした。

小川町は森林や農用地が多く、このため、アライグマも県内では多い状況にあります。現在、県のアライグマ防除計画に基づいて駆除などの対策を行っています。

取り組みとしては、2 年に 1 回、町民を対象にアライグマ捕獲従事者養成研修会を行っています。この研修を修了した者は捕獲器による捕獲ができるようになります。今年は 2 月 23 日に開催予定です。



駆除の方法としては、町から捕獲器を貸し出しています。農業被害については産業観光課が担当で、環境保全課は住宅被害の担当です。

捕獲数は少ない年で 114 頭、多い年で 270 頭に上ります。捕れるのはオスが多く、メスを捕らなければと思います。山際で多く捕れ、冬場は捕獲数が少ない状況です。

課題は捕獲従事者の育成、近隣市町との連携、農家・住民の意識の向上です。今後さらには防除に力をいれていかなければと思っています。

## (3) アライグマによる生態系影響 ～国内外の事例と今後の課題～

埼玉県環境科学国際センター自然環境担当 角田裕志

私はアライグマの専門家ではありませんが動物に関する環境分野の研究者として、今回は内外の文献調査の結果からアライグマの生態系影響についてお話しします。



アライグマについては、我が国では農業被害や生活被害に関する対策が大分部を占めており、生態系被害の実態に関する研究は少なく、特に論文化されたものが少ない状況です。

アライグマ侵入の生態系影響については、在来生物の捕食や在来生物との競合などが挙げられます。一般的には外見が似ているタヌキとの競合が考えられますが、結構、食性が違います。アライグマが樹洞、

木の穴を奪うということでフクロウと競合関係にあるようです。サンショウウオやカエルなどの両生類を捕獲するという点では、サギ類や爬虫類に影響があるという報告があります。アライグマの生態、特に食性は地域差が大きいことがわかっています。このため、生態系影響についても地域性が大きく、地域ごとの情報が大切です。また、多くの分類群に対する影響は未解明であり、生物群集全体への影響も不明な状況です。

アライグマを防除することで考えなければならぬことが3つ程あると思います。一つは侵入溶融といって、アライグマが侵入したことで、他の外来種も増えてしまうことがあります。2つ目は、生態的解放です。アライグマを駆除したことで、他の外来種が増えてしまう。例えば、オオクチバスを駆除したら、アメリカザリガニが増えてしまったということがあります。3つ目は、レジームシフトといって、アライグマを駆除したのに、在来種や生態系が回復しないということです。こうしたことも、今後、しっかりと見ていく必要があります。

単にアライグマだけを見ているのではダメです。生態系全体を広く把握していく必要があります。

#### 4 質疑・応答とフロア・ディスカッション

モデレータ：嶋田知英（いろいろ生きものネット埼玉理事）

##### (1) 自治体アンケート結果の概要

いろいろ生きものネット埼玉では、埼玉県における外来動植物の状況や対策を把握するため、昨年度は NPO 等の住民団体に対して外来植物の状況と対策・希少植物に関するアンケート調査を行いました。今年度は県内自治体に対して外来動植物の状況と対策に関するアンケート調査を行いましたので、まず、その概要について簡単にご説明させていただきます。

県内63市町村に対してアンケートを送付したところ、34市町から回答をいただきました。問題となっている外来動植物については、アライグマが圧倒的に多く、次がオオキンケイ



ギク、3番目がハクビシンでした。ハクビシンは外来生物ではありませんが、問題となっているため回答されたものと思われます。近年の増減傾向については、アライグマについては、「とても増えた」「多少増えた」が大半でした。外来動植物による被害の対象については、農業被害、人への被害、在来植物がほぼ同等に回答されました。対策に関する回答では、アライグマは自治体自らが捕獲・駆除対策を行っていますが、その効果は不明であるとするものが多くを占めました。最後に外来動植物対策を実施する上での課題については、「知識や技術を持った人材の不足」という回答が最も多く、次で「駆除参加者の不足」「予算不足」が比較的多く回答されました。

## (2) 質疑応答

Q チームアライグマ Iさん

- ① アライグマは車に轆かれにくいといいますが、タヌキとの違いは何ですか。
- ② ハクビシンが北欧の動物園から入手依頼があったといいますが、ハクビシンは珍しい動物なのですか。

A 古谷

- ① タヌキは道路を勢いよく走り抜けますが、アライグマはとにかく慎重であり、そこが全く違います。
- ② 昔、こども動物公園にいたことがあるので、その関係から動物園協会を通して話がありました。ハクビシンはヨーロッパでは珍しい動物です。



Q 自然保護学会 Tさん

本日の基調講演は、里山や丘陵での話が中心でしたが、山間部や奥山については、どのように考えていただいているのでしょうか。

A 古谷

1000m級の山にもアライグマは生息しています。まだ、対策をとるべき状況にはないのですが、研究の場ではあります。

Q さいたま市在住 Kさん

低い電気柵でも効果があると聞いて、たいへん興味深かったです。低い柵は他の動物にも有効なのですか。

A 古谷

38~40 cmの電気柵はアライグマだけでなく、ハクビシン、イノシシ、アナグマ、タヌキ

には有効です。しかし、シカと猿には効きません。

Q 坂戸西高校 Fさん

アライグマは早朝でも行動するとの話ですが、地域によって行動パターンが違うのですか。

A 古谷

その場所の特徴によって行動パターンは違います。行動域が広い場合、餌の場所が離れていれば、朝方から動き出す場合もあります。

Q 埼玉県東松山環境管理事務所 Mさん

エサが地域によって変わるといいますが、季節によっても変わるのですか。

A 古谷

3~4月頃に出産しますが、その子供と行動する場合は畑が餌場となることが多いです。冬場になると動物性タンパクをとるために、動物、例えばサワガニなどを餌にすることがあります。このため罠などでも、秋口は魚肉ソーセージを使うことが多いです。

Q チームアライグマ 中学校2年 Tさん

私たちにもっと調査してほしいことは何かありますか。

A 古谷

冬のアライグマの実態や春先にどこで出産するのかがよくわかっていないのです。そうしたことを調べてくれたら有難いです。

Q 千葉県いすみ市 房総野生生物研究所

いすみ市はアライグマの発生が最も多い地域であり、年間400~500頭も捕獲しているのですが、一向に減りません。対策は地域や大原高校と連携して取り組んでいます。質問は、アライグマは里山が多いようですが、奥山にもいるのですか。また、捕獲後の殺処分では、二酸化炭素処分と水漬けがあると思いますが、小川町ではどのように行っているのですか。

A 古谷

奥山にもぼつぼつといます。単独でいることが多いです。

A 小川町・岸

小川町では二酸化炭素と注射での安楽死の方法をとっています。水漬けは行っていません。動物の命を奪うことなので、供養や慰霊祭を行っています。

Q 東京都動物愛護推進員 Hさん

イヌ、ネコとアライグマとは関係があるのですか。また、アライグマにはどんな感染症



が問題となっているのですか。

A 角田

野ネコは特に関係はないようです。アメリカではアライグマの天敵としてはコヨーテが挙げられています。日本では、もし野犬がいるなら、それはアライグマの抑止要因になると思われます。

A 古谷

アライグマについて気を付けなければならない感染症は、アライグマ回虫症と狂犬病です。

### (3) フロア・ディスカッション

#### モデレータの問題提起

アライグマは外来生物、一方、ハクビシンは在来生物と区分されています。在来と外来の線引きをどう考えるかも含めて、私たちは外来生物の問題をどうとらえ、どう取り組んでいったらいいのでしょうか。皆さんのご意見を伺いたいと思います。古谷さん、角田さんあたりから、口火を切っていただければと思います。

古谷

本日、お話ししたように農業被害という点から考えれば、外来も在来も違いはありません。一方、農業が餌の手助けをしているという視点もあり、これらの生物が自然界に与える影響も考えて、農業分野でも対策をとる必要があると思います。

角田

外来生物の問題は、生物多様性を損ない、その結果、生態系サービスを劣化させるという問題を引き起こすことです。埼玉県の高野で、コバトンのモチーフになっているシラコバトは江戸時代に移入されたと言われており、外来の生物です。しかし、今日では文化的な意味でプラスサービスをもたらしており、こういう場合もあります。まずは、植物も含めて、侵略的な外来生物について特に対策をとっていく必要があると思います。

チームアライグマ指導教員 Tさん

チームアライグマの生徒たちで、アライグマの問題を考えました。アライグマはペットとして飼っていたものを飼育を放棄して捨てたことが原因です。その結果は大量に捕獲し処分しなければならない事態に陥っています。生徒たちの結論は「第二のアライグマをつくらない。」ということでした。そのために「持ち込まない、捨てない」ということを徹底すべきということになりました。

荒川の自然を守る会 Sさん

荒川でもヒガンバナはきれいだからと言って、植える人がいます。動物の場合はアライグマもそうですが、かわいいから入れるということになります。「きれい」「かわいい」ということが優先されてきた結果が、こうした問題を引き起こしているのだと思います。

モデレータ：外来と在来の線引きについては、植物がご専門の牧野先生はいかがお考えですか。

牧野（いろいろ生きものネット埼玉）

在来と外来の線引きを明治維新で行うことには異論がある人もいるかもしれませんが。しかし、法律では、どこかで線引きしなければ対策を打つことができないのです。

現実には在来と外来の区分は難しいです。植物には自然帰化というのがあります。稲が移入されたとき、それに伴って何種類かの植物が入ってきて定着しました。それらも外来種ですが、ネイチャーヒストリー的に見れば、自然の流れです。川越に仙波東照宮という神社があります。何十年も前になりますが、ある人が徳川家だからということでカンアオイを植えていました。その後、そこを調査してみたら、カンアオイはすっかり根付いていました。外国からというほかに、こうして圏外から意図的に移入させる場合もありますが、何十年も経ってしまえば、外来種、移入種とって問題視することもなくなります。また、外来種問題を考えるとき、日本に入ってきた外来種だけでなく、日本から出ていった外来種も視野に入れるべきです。例えば、葛は外国では、外来種としてかなり広がっているようです。

モデレータ：それでは、時間もなくなりましたので、これで質疑応答とディスカッションを終了したいと思います。今、問題となっているアライグマは、外来生物について、私たちがどう向き合っていっていいのか、実に多くの気づきや課題を与えてくれているような気がします。本日は、ご参加いただき、本当にありがとうございました。

#### 【会場の状況】



【ポスター展示の状況】

○荒川の自然を守る会（上尾市）



○児沢探検隊（東松山市）





○エコシティ志木（志木市）



○埼玉県生態系保護協会岩槻支部（さいたま市）



# ○チームアライグマ

### チームアライグマのこれまでの活動 ～高校で連携して外来生物問題を考える～

群馬県立高等学校生物部連合会として、  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

**2014年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2014年4月20日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2014年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2014年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

**2015年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2015年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2015年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2015年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

**2016年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2016年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2016年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2016年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2017年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2017年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2017年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2017年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2018年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2018年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2018年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2018年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2019年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2019年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2019年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2019年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2020年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2020年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2020年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2020年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2021年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2021年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2021年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2021年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

**2022年度** 群馬県立高等学校生物部連合会  
2022年4月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2022年5月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会  
2022年6月10日  
群馬県立高等学校生物部連合会

このように10年間は研究発表を中心とした活動を展開していった。  
また、調査を進める中で一歩の先への道徳が深まっていたことが分かった。  
これを、10年間の活動に繋げることにした。

### 中高生合同研究グループ 「チーム アライグマ」メンバー紹介

海城中学高等学校 生物部  
埼玉立熊谷高校 理療科学部  
埼玉立熊谷西高校 科学部  
埼玉立所沢高校 生物部  
埼玉立所沢西高校 生物部  
埼玉立越谷北高校 生物部  
埼玉立熊谷西高校 理療科  
埼玉立赤松西高校 生物部  
埼玉立川越女子高校 生物部

海城中学高等学校  
埼玉立熊谷高等学校  
埼玉立熊谷西高等学校  
埼玉立所沢高等学校  
埼玉立所沢西高等学校  
埼玉立越谷北高等学校  
埼玉立熊谷西高等学校  
埼玉立赤松西高等学校  
埼玉立川越女子高等学校

#### 埼玉県立越谷北高校 生物部

研究内容  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

一見  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

#### 埼玉県立熊谷西高等学校

研究内容  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

一見  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

#### 埼玉県立川越女子高校 生物部

研究内容  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

一見  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

#### 埼玉県立越ヶ谷高等学校 科学部

研究内容  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。

一見  
シシホのヤムホの仲間、研究活動、セミナー等を通して取り組んでいる。



# 〇いろいろ生きものネット埼玉

**NPO いろいろ生きものネット埼玉** line@net Saitama

「いろいろ生きものネット埼玉」は、埼玉県内の市民、市民団体、事業者、行政機関など「いろいろ」な人たちが組織と連携し、生物多様性の保全を推進することなどを目的した団体です。将来にわたり豊かな自然環境が維持され、人と自然が共生する社会をつくるための活動を行っています。

**活動紹介**

■ **外来生物アンケート**  
県内の団体や自治体に対しアンケート調査を実施し、県内の外来生物への取り組み実態を把握しています。

■ **外来植物（オオフサモ）除去活動**  
上尾市と伊勢崎市の境を流れる都市沼川で、特定外来生物オオフサモの除去活動を行っています。

■ **緑の森博物館での里山管理活動**  
埼玉県と協定を結び、狭山丘陵に広がる「さいたま緑の森博物館」においてO.Shaに広がる雑木林の管理を担っています。

■ **生きものモニタリング調査**  
県みどり自然課が実施している、国民参加型生物モニタリング調査に参加し、県内2ヶ所で定期的にラインセンサス調査を実施しています。

■ **生きものフォーラムの開催**  
当県では、生物多様性などの話題について、多くの市民と専門家とが交流する場として、「生きものフォーラム」を定期的に開催いたします。

<https://sites.google.com/site/saitamainenet/>  
e-Mail: [linenet.saitama@gmail.com](mailto:linenet.saitama@gmail.com)

**埼玉県内で見られる主な外来植物**

**アライグマ (Procyon lotor)**

撮影: 埼玉川の博物館 石井茂徳氏 撮影日: 2009年12月1日

**ハクビシン (Paguma larvata)**

撮影: 埼玉川の博物館 石井茂徳氏 撮影日: 2009年12月1日